

企画展「あいちの発掘調査 2023」主な展示品

	<p>1 パレス・スタイル壺</p> <p>朝日遺跡（愛知県清須市・名古屋市西区） 弥生時代後期 あいち朝日遺跡ミュージアム蔵</p> <p>名古屋第二環状自動車道・名古屋高速6号清須線・名古屋高速16号一宮線を接続する清洲ジャンクション付近の発掘調査で出土した弥生時代の壺。パレス・スタイル土器はベンガラなど赤色顔料を塗布した装飾土器。本資料は赤色に加え黒色による装飾があり、赤と黒の斑点が交互に推定各12個配列されている。最近、この壺の文様について天文学の視点から改めて解釈しようとする説があり、注目される。</p>
	<p>2 片口鉢と台石</p> <p>中狭間遺跡（愛知県安城市） 弥生時代終末期から古墳時代初頭 愛知県埋蔵文化財調査センター蔵</p> <p>弥生時代の代表的な墓、方形周溝墓の溝から出土した片口鉢と台石。これらは赤色顔料が付着し、顔料を精製する道具として使用されたと推定される。この赤色顔料は蛍光X線分析の結果から辰砂を材料とする水銀朱と判明した。辰砂の産地は愛知県設楽町津具、三重県多気町丹生、奈良県宇陀市菟田野などが知られており、貴重なものであった。</p>
 <p>写真提供：刈谷市</p>	<p>3 灰釉長頸瓶</p> <p>井ヶ谷古窯跡群・寺山下古窯（愛知県刈谷市） 平安時代 刈谷市蔵</p> <p>昭和42年に愛知教育大学構内の発掘調査で出土した灰釉長頸瓶。井ヶ谷古窯跡群は古墳時代から鎌倉時代の焼き物産地として有名な猿投窯（猿投山西南麓古窯跡群）の一角にある。近年改めて付近の分布調査が実施され、その成果が注目されている。</p>
	<p>4 古瀬戸灰釉四耳壺</p> <p>扶桑北窯跡（愛知県瀬戸市） 鎌倉時代 瀬戸市蔵</p> <p>中世六古窯の一つとして著名な瀬戸窯赤津地区に位置する山茶碗窯から出土した古瀬戸の壺。山茶碗窯でも窯道具として利用するために古瀬戸製品が持ちこまれる場合があるため、古瀬戸製品の出土自体は珍しくはない。しかしそれらの例は破損品の再利用であるのに対し、本資料は扶桑北窯の操業以前の時期に作られた古瀬戸灰釉四耳壺の完形品である。山茶碗窯から完形の古瀬戸製品が出土したのは初めてで、何らかの祭事に使用するため持ち込まれた可能性もあり、注目される。</p>